

玉山（新高山）登頂録

第 21 回台湾歯科医学会総会講演

神奈川歯科大学客員教授、医療法人社団恵生会理事長

渡辺孝夫

豆知識：玉山、旧称新高山（にいたかやま）・モリソン山（Mt Morrison）[台湾](#)のほぼ中央部に位置する山。標高は [3,952m](#) と台湾で最も高い。



歴史

台湾原住民のツォウ族の言語では「パットンカン (pattonkan、石英のこと)」と呼ぶ。清代初期の文書によれば「八通関山 (パットンカンの音訳)」、「雪山」と呼んでいた。欧米では、商船主・モリソン (W. Morrison) が報告したことから「モリソン山」と呼ばれた。日本統治時代には、明治天皇により富士山よりも高い「新しい日本最高峰」の意味で新高山と名づけられた。富士山の標高 3,776m よりも高いことから、大日本帝国の台湾領有期には日本一標高の高い山として知られ、大日本帝国の学校でも「日本一の山」として教えられていた。また 1937 年には「新高阿里山国立公園」として、大日本帝国の国立公園に指定されていた。

1941 年 12 月 2 日に発令された日米開戦の日時を告げる、大日本帝国海軍の暗号電文『ニイタカヤマノボレー二〇八』の「ニイタカヤマ」とは、当山のことである。

第二次世界大戦に日本が敗戦し、台湾の領有権が中華民国に移る際に、現在の名前に戻された。その後は「重要な軍事拠点」とされ、入山には中華民国政府の許可が必要であった。なお民主化以降も、一部の観光地を除いた地区の入山には許可が必要である。しかしこれは自然保護の観点からであり、事前に申請を行えば、民主化以前に比べれば容易に入山する事ができ、観光ツアーもある。

初登頂

日本の人類学者、鳥居龍蔵は 1900年4月11日、台湾調査の傍ら、この山の登頂に成功した。異説はあるものの、記録上これが玉山初登頂となっている。

今回の台湾行は 2017 年 8 月 11 日より 13 日までの 3 日間、台北の (Taipe International Convention Center) (TICC) でひらかれた 21st General Assembly、 the Association for Dental Sciences of the Republic of China (ADS-ROC) に invited speaker として招聘され、講演することが目的だった。しかし、この機会に以前より考えていた台湾の主峰、玉山 (日本名新高山) 登頂を企画した。

2017 年 8 月 11 日 (金) : 講演 (Practical understanding of Er:YAG laser as hard tissue laser) 終了。夕方の会長招待講演者歓迎パーティーに参加する。いつも招待に骨を折ってくれる藍教授に挨拶する。藍教授、東京医科歯科大学大学院に留学経験あり、日本語が達者だ。藍先生とその教え子と一緒に。



8 月 12 日 (土) : いつも台湾歯科医学会に招待をサポートしてくれる社長の Dr.柯、そして彼の 85 歳に近いお父さん。日本語が達者で、いつも歓迎してくれる。今回は日本レストランに招待してくれた。お父さんは終戦時、小学校 6 年生、その時までは自分は日本人と思っていた。突然に日本人でなくなり戸惑ったとのこと。それ以来、プライドをもって日本語の勉強を続けた。D R.柯は英語だけ、本人を前にしてお父さんと日本語の会話をすること、奇妙で面白い。



8月13日(日): Dr. 柯はAPDL会を主催している。この日は彼の会社の講堂で総会があった。私は特別講師として講演した。内容は台湾歯科医学会での講演とほぼ同じにした。



終了後は、恒例の記念写真。盛大でかれの活動は台湾の歯科医学界に一定の影響をもっていることがうかがい知れた。





講演の後はD r. 柯と台湾で有名なナイトマーケットで食事した。



明日からの玉山登頂に備えて、荷物の整備後、就眠。

玉山登頂3日間

コーディネイト：プランニング・ケイ 東京都千代田区神田駿河台 1-5-6-306 03-3259-2071

現地旅行社：SATIS TOUR 台北市民生東路 1-3 9-6

ガイド：蘇慶元 (S u Q i n g Y u a n) (8 8 6-9 3 7-0 3 0-0 9 8)

8月14日(月) 1日目

13:10 台北福華大飯店集合。ガイドの蘇さんと面会。大学で日本語を専攻。流暢な日本語を使う。

一通りスケジュールの説明があった。フレンドリーな人柄。

13:30 現地旅行社が手配してくれた専用車(バン)にて阿里山へ。

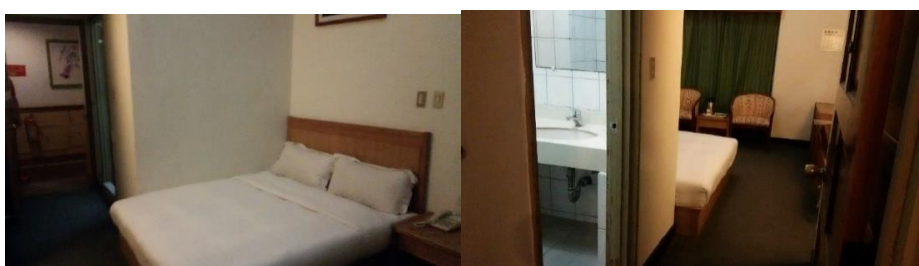
写真は阿里山国立公園の入口。



18:30 公園内のホテル（阿里山閣）に到着。



チェックインする。内装はクラシックで格式のある雰囲気を醸し出している。



19:00 夕食はホテルの緑野珍にて郷土料理。地元の食材を使った鍋料理、キノコなど山菜がおい

しかった。



早めに就眠。

15日(火) 2日目

5:30 起床。まだ、そとが暗い。ホテルの近くをトロッコ列車が走る音がきこえる。少し、空が



明け始めたころ、ホテルの外に出てみた。

ホテル近

くの踏切。遠くに沼平駅の駅舎がみえる。沼平駅は海拔 2,274m の高地にある。高地であるため、夏でも温度は低い。ひんやりとして気持ち良い。駅舎近くにあった説明文によると、日本が併合していた時代、このあたりは木材の産地として栄えて、その集積地であった。多くの木材は良質な木材として日本内地に送られたらしい。現在は新しくなっているがホテルや駅舎はその当時にすてにあったもので、歴史的にも貴重な。吉野桜など多種類の桜の名所だそうで日本の影響が垣間見える。その当時に使われていた機関車が展示してあった。現在は避暑地、あるいは歴史的な場所として多くの観光客を集めている。



沼 平 駅



展示されているトロッコ機関車。実際に使っていたものだ。



駅舎にあった沼平駅の歴史説明板。当時は材木の生産地として相当栄えたらしい。



下左写真は駅舎からホテルを望む。現在はジーゼル機関車が6両の客車をひいている。



駅舎近くの蒋介石総統の石像。

6:30 ホテルに戻って朝食をとる。

7:20 ホテルからシャトルバスで公園の駐車場まで乗車。公園内に一般車両は入れない。

7:30 専用車に乗り換え、シャトルバス停を出発、登山口へ向かう。

8:30 登山口のある玉山警察隊塔加小隊の事務所および排雲管理事務所に到着



ここでパスポートを提出し登山申し込みをする。ガイドの蘇さんによると、登頂者数は制限があり、1日104人、このうち24人が外国人枠であるとのこと。あらかじめ申し込みする必要がある。シーズンでは台湾人でもその枠にはいるのは難しいらしい。申し込みが多いと抽選になるらしい。幸い、私は外人枠の中にはいった。

ここから更に管理事務所のバスで登山口に向かう。

8:40 登山口に到着。ここが玉山の登頂口だ。ここから先は登山者の足だけの登山道路、人以外の動力は全く使えない。出発前に蘇さん、もう一人の登山者と記念撮影。登頂出発。標高3402mの排雲山荘までの8.5kmの行程。登山口の標高は2610m、標高差は約800m。



パトロール中の警察官2人。許可なしの登山者などをチェックしている。許可なしだと罰金も科されるなど、厳しい。



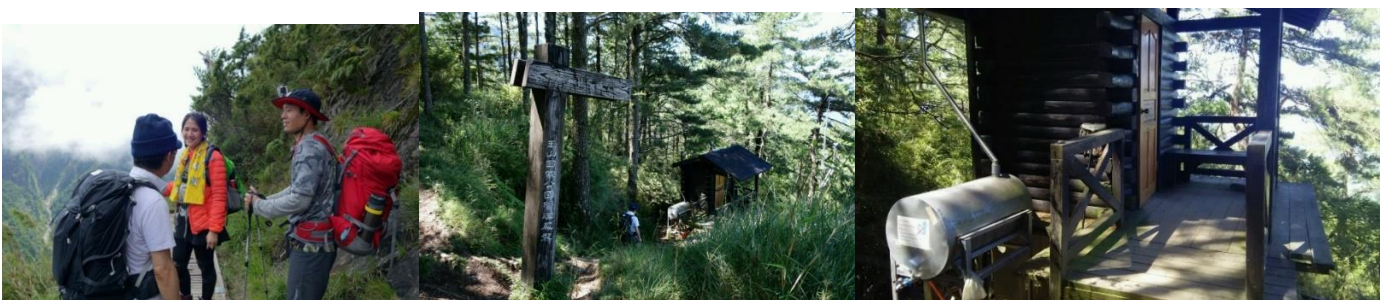
険しい崖には橋が作られている。排雲山荘まで82個、このような橋があるという。



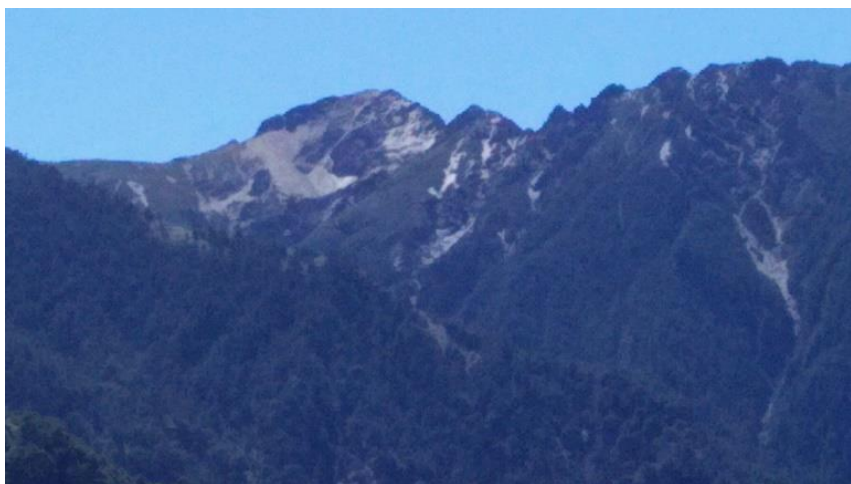
このあたりまでは、ちょっと汗をかいていましたが余裕がありました。



日本人男性と台湾人女性のカップル。日本語で挨拶できた唯一のグループでした。



写真は登山道途中の公衆トイレ。太陽エネルギーを使った水洗式。登山道は良く整備されている。



登山道から見る山々。白く見える崖は

地震などで崩れてできた崖だという。このあたりは大昔海底の砂地で、これが盛り上がってできた地層であるとのこと。エベレストのあるヒマラヤ山脈と同じです。そのため、地質は崩れやすいそうです。眼下には楠梓仙溪が広がる。

登山道の途中の崖面。大昔、海底の砂地であったため化石が多数みられる。このあたりの山の成り立ちが良くわかる地層です。地質学者にとっては宝の山。このような地層はいたるところにみられます。



蘇さんの勧めで休憩です。

途中でえら

く可愛い女性との一コマ。蘇さんによると今台湾で人気のあるタレントさんで、登山家でもあり料理人でもあるとのこと。でも蘇さん、名前、覚えていませんでした。

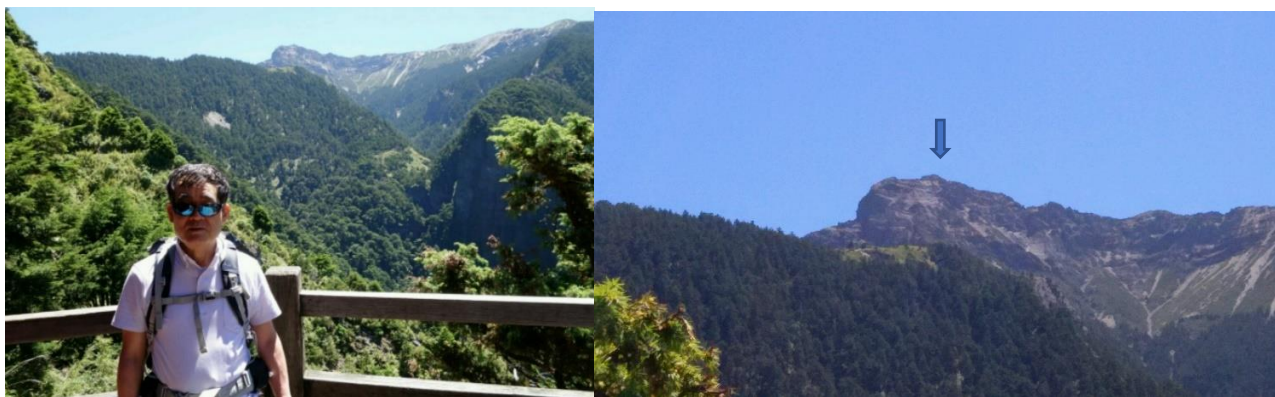
林の中や草原をもくもくと登っていきます。このあたりでやや疲れがみえてきました。



日陰で休憩です。

昼頃 モンロー亭で休憩 この地点は海拔2838m、玉山山頂を間近にみることができます。

登山食を食べる。遠くに玉山の特徴的な主峰（矢印）が見える。主峰はバッファローの頭のような独特の形をした岩山の先にある。登頂が楽しみだ。



14:30 排雲山荘到着。排雲山荘ちかくの山道は険しく、登山に必死だった。



山荘でスタッフと握手。

山荘は6年ほど前に建てられたもので、まだ新しい。トイレが設置されており、大使用は3室ありちゃんとした水洗トイレで快適だ。紙は持参したロールペーパーを使用した。小使用は壁に向かって行う形式で3人が使用できる。山荘に着くとすぐに下着を脱いで水洗した。しかし、気温も低く、乾燥室で干したが乾かなかった。

次の写真は山荘から眺めた周囲の山。夕やみが迫るとやや冷える。山荘から主峰に向かう登山道。

明日はこの道を使う。小鳥が一羽、近くに止まった。



17:00 夕食。山小屋にしては豪華な食事。お湯も飲める。ごはんとおかずが数種類あった。ここでも山菜漬物があった。体調もよく、うまい。スープはコンソメ。もちろん、明日のためお酒は飲まなかった。



18:00 寝袋に入って就眠。近くの登山者の携帯電話が煩かったが、疲れと食事の満腹感でほどなく、苦も無く眠れた。

16日(水) 3日目

1:30 起床。十分に寝られたため、寝起きが自然で気持ち良い。体調も良好。頂上アタックの

ため、余計な荷物は持たないことにし、大部分の荷物は山荘にのこした。



2:00 朝食、山菜がうまい。

2:40 出発。真っ暗な中、頭に付けた懐中電灯をたよりに山を登る。

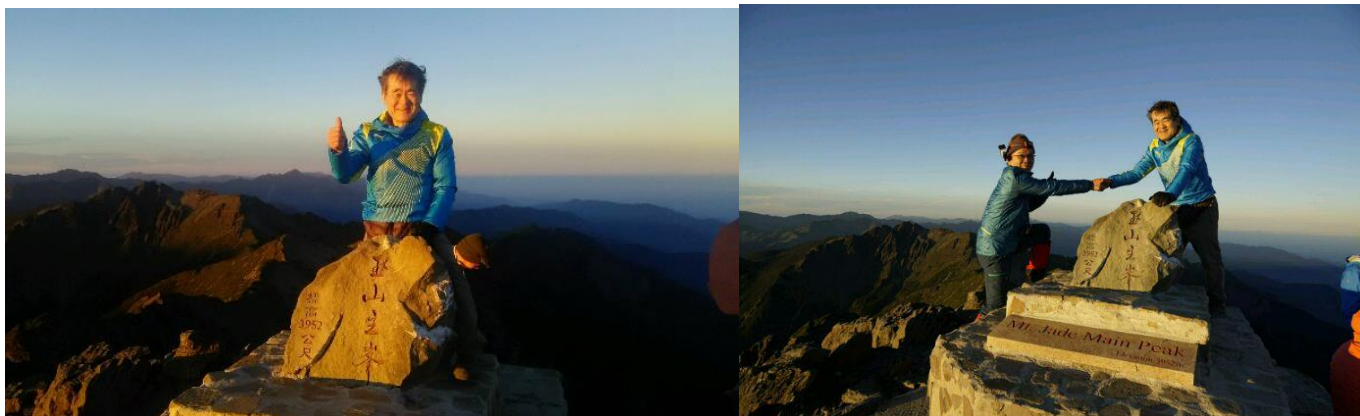
4:40 風口到着。ここで一休み。排雲山荘より約30分。風除けの施設でこの先はいつも凄い風が吹いているそうだ。しかし、今日は幸いなことに風はそれほど強くない。蘇さん、非常に珍しいとのこと。とは言え、私にはそれでも寒かった。このあたりから、少しずつあたりが明るくなって来る。空は雲一つない晴天だ。風もほとんどなく絶好の登山日和になっている。寒さも、明るくなるにつれて気にならなくなった。岩場の道幅は狭く、斜度も急になり今までの楽々登山から急に命がけの岩登り登山に変わってきた。とくに険しいところは傾斜90°にちかく、鎖がある。鎖を話せば真っ逆さまに落ちそうな岩道を、めいっぱい慎重に登る。鎖から手を離せない。少しずつ高度も上がっている。

5:30 玉山主峰到着。山頂はとがった険しい岩場になっており、30人程度がやっとたつことのできる狭さだ。日の出をみる登山者。皆さん、感動の一瞬である。



周囲はまだうす暗いが、徐々に地平線があかるくなってきた。晴天である。朝日を浴びて頂上でポ

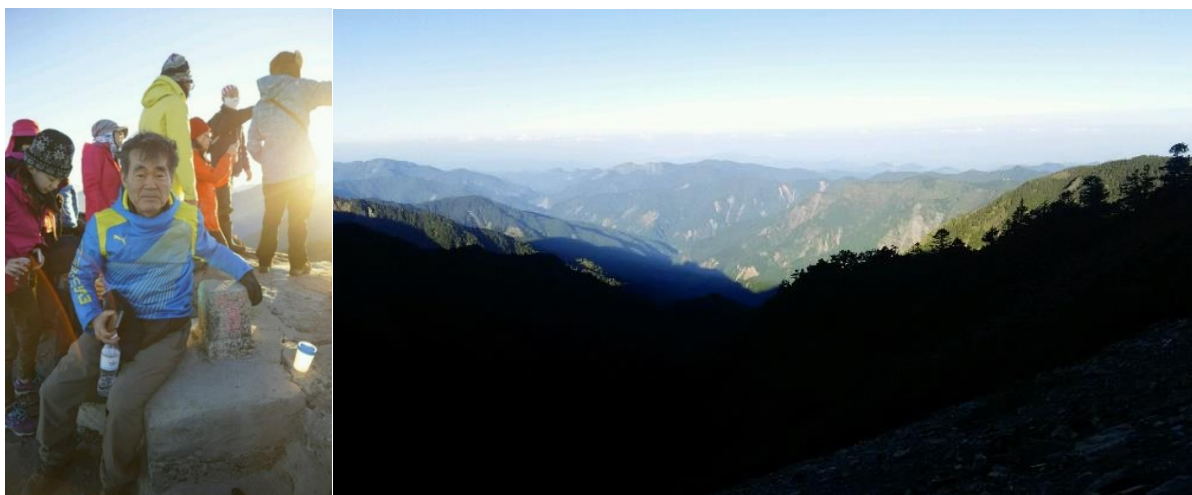
ーズをとる。とうとう3952m、東北アジア最高峰の玉山山頂に立った。山頂のモニュメントで蘇さんと感激の握手。



玉山の頂上は狭い。そのこともあって一度に滞在できる人数に限度がある。1日、登頂人員が104人に限定されているもの、その狭い地形にあるものと思われた。



朝日を浴びながらの水分補給。山頂より周囲の山を眺める。



6:00 下山開始。いざ、下山となって、頂上より下を眺める。まるで谷底に吸い込まれるような険しい下山道。上りと同じく、慎重に下山する。



風口。上るときはまだ暗かった場所だ。ここまでくれば、とりあえず安心だ。

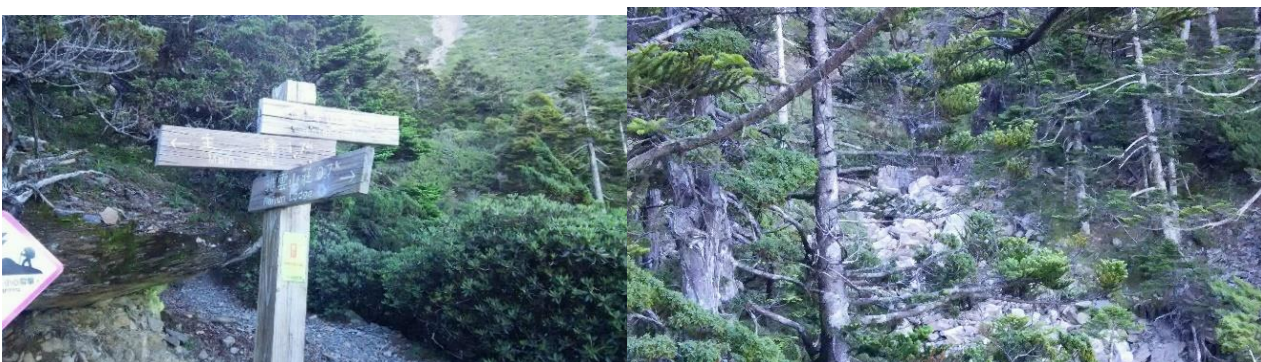


下山途中で山頂付近を眺める。

森林との限界境界。草木は強風のため山頂方向に傾いている。

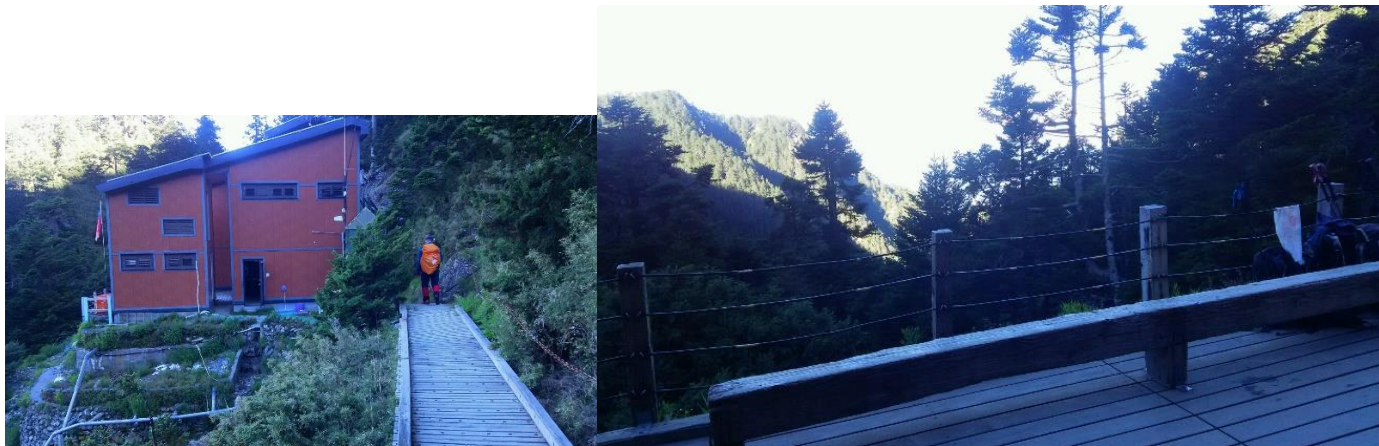


排雲山荘への方向印。

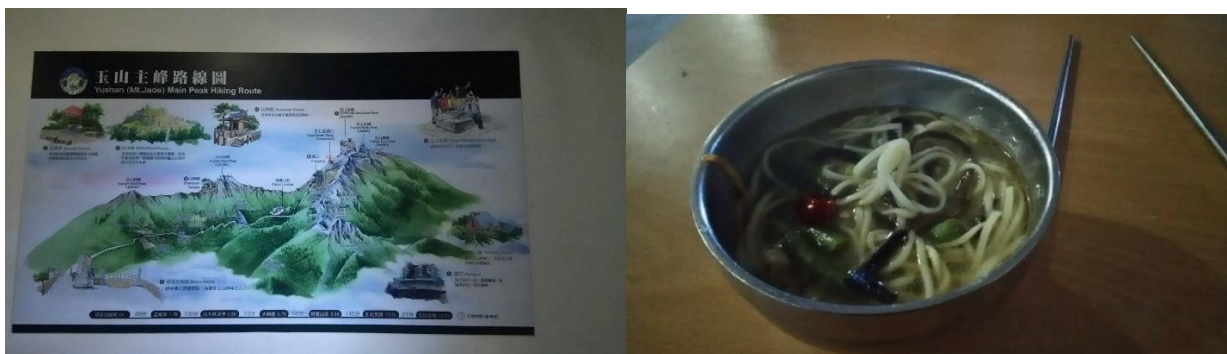


途中には滝がある。この水は排雲山荘へ飲料水として供給されている。

8:00 排雲山荘到着。徐々に周囲の山々もあかるくなってきた。



朝食と荷物整理。写真は朝食にでたラーメン、おいしかった。



9:00 登山口へ下山開始。下山途中であったドイツからのグループ。



途中の円山山頂への登山口で一休み。

12:40 塔塔加陵部登山口到着。蘇さんの要求で、やっと着いたといったポーズをとる。本当は結構元気でした。このころから空に雲がかかってきた。今回の登山、ここまでは天気も味方して

絶交の日和になった。感謝。



13:00 バスにて上東塔停車場へ。そして専用車にて台北へ。日本にもよくある田舎風景だが、一つだけ、日本と違っていた。ビンロージュの木である。ヤシの木ににていて田んぼの中によく見られた。

18:40 台北市福華大飯店到着。ひとり、ホテルの部屋で、今回の玉山登頂を思い出しながら途中のコンビニで買った台湾の酒を飲んだ。祝杯。



17日(木) 昼頃、ホテルをでて、松山空港に向かう。同日、夜、東京羽田到着。

まとめ：一昨年、エベレスト4000mをトレッキングした。その時の苦しくも爽快な経験が忘れられず、今回は台湾の主峰玉山 3952mを登頂した。天気にも恵まれ、体調も良好、蘇さんの素晴らしいガイドで絶景を楽しむことができた。コーディネートしていただいたプランニング・ケイの古谷さん、そして、排管事故の最中、黙って送り出してくれた我が診療所のスタッフに感謝する。台湾には三環という言葉がある。①自転車で台湾を一周する、②玉山に登頂する、③日月潭（にちげつたん、台湾で最も大きな湖で、湖の北側が太陽（日）の形、南側が月の形をしていることから

こう呼ばれる) を泳ぎ切ることの3つを完遂することである。今回はその内、玉山を完遂した。

蘇さんが主峰アタックの様子を撮影した動画を YouTube に載せてくれた。参照ください。

20170816 新高山下山 碎石坡 -

<https://m.youtube.com/watch?v=sYrm4uoks4g&feature=youtu.be> 20170816 新高山登頂 日

の出 <https://m.youtube.com/watch?v=cbjy6UPvI6k&feature=youtu.be>

20170816 新高山登頂記録 -<https://m.youtube.com/watch?v=IPu3iCavQ9Y&feature=youtu.be>

20170816 渡辺孝夫 新高山登頂感

https://m.youtube.com/watch?v=M9I9XL_Aquw&feature=youtu.be

<https://m.youtube.com/watch?v=8gVUDTRnFlU&feature=youtu.be>

今回のスケジュールは以下の通り。

10th Aug. Thu: Flight; China Airlines C10221, Tokyo/Haneda 14:35 (International terminal), Taipei/Songshan 17:15(Terminal 1). Stay at Howard Plaza Hotel Taipei, Taiwan, No.160 Section 3, Ren'an District, Taipei 106, Taiwan.

11th Aug. Fri: 15:30 - 16:30 presentation in 21st General Assembly, 40th Annual Scientific Meeting of Association for Dental Sciences of the Republic of China (ADSpROC) at Taipei International Convention Center. 演題: Practical understanding of Er:YAG laser as hard tissue laser. Stay at Howard Plaza Hotel Taipei, Taiwan, No.160 Section 3, Ren'an District, Taipei 106, Taiwan.

12th Aug. Sat: Stay at Howard Plaza Hotel Taipei, Taiwan, No.160 Section 3, Ren'an District, Taipei 106, Taiwan.

13th Aug. Sun: Stay at Howard Plaza Hotel Taipei, Taiwan, No.160 Section 3, Ren'an District, Taipei 106, Taiwan. Presentation at Asian Pacific Laser Association.

14th Aug. Mon: 13:30 at the Roby of Howard Hotel/ stay at Ari San Kaku Hotel (阿里山閣).

15th Aug. Tue: 7:45 depart at Hotel(阿里山閣)/ 15:30 arrive at Hai Wun San Sou Hotel (排雲山莊) stay at Hai Wun Shan Sou Hotel (排雲山莊).

16th Aug. Wed: 3:00 depart at Hotel/ 5:30 arrive at the summit of Yushan (玉山登頂)/ 20:00 arrive at Howard Plaza Hotel. Stay at Howard Plaza Hotel Taipei, Taiwan, No.160 Section 3, Ren'an District, Taipei 106, Taiwan.

17th Aug. Tur: Flight; China Airlines C10222, Taipei/Songshan 18:25(Terminal 1), Tokyo/Haneda 22:05 (International terminal)